

神奈川宇宙サミット特別スピーチ

宇宙飛行士 野口 聡一

神奈川スペースサミットのプログラムと背景

- スローガン「宇宙県神奈川に集え」の下、黒岩知事のリーダーシップで実施
 - 黒岩知事の手術成功と早期回復を祈念
 - プログラムはスペースコモンズ(宇宙を人類共通資産としてどう活用するか)とアースサイド(地上の社会課題解決に宇宙をどう役立てるか)に明確分割
- 目的
 - 宇宙と地上の双方向価値創出
 - 県内外の産官学連携による具体的ソリューションの探索と実装

神奈川の宇宙関連産業の振興を考える有識者会議

- ステータス
 - 今年度発足の「神奈川の宇宙関連産業の振興を考える有識者会議」が継続稼働
 - メンバーは 14 名、委員長は白坂先生(慶應義塾大学)、サミット実行委員長の山口氏ほか、野口氏も参画
- 目的
 - 県内の強みとアセットの棚卸しと戦略的活用方針の策定
 - 相模原(JAXA 宇宙科学研究所)／鎌倉の主要メーカー群
 - 横浜・大和・茅ヶ崎などの地場企業群
 - 東京至近という地理的優位
- アプローチ
 - 垂直統合(SpaceX 型)のではなく、日本型の水平連携を重視
 - 衛星製造者ネットワークと衛星データ活用側(アプリ・サービス・インフラ)を強く接続
 - 「スペースビレッジ」構想による継続的な交流・共創の場づくり
- 直近フォーカス
 - 県内強みのマッピング精緻化と優先テーマ(例:防災・インフラ・未病)の特定
 - 実装志向のプロジェクト形成(実証設計と成果指標の事前定義)

「KANAGAWA Space Village」

- 背景・狙い
 - 県内に世界水準のプレイヤーが点在する一方、価値連鎖が分断されがち
- 取り組み・提案
 - 産官学の越境交流を常態化する物理・バーチャル双方のハブ設計
 - 製造からデータ利活用までの価値チェーンを水平連携で接続
 - グローバル事例のベンチマーク(SpaceX の垂直統合は参照に留め、日本適合の形へ最適化)

プロジェクト:衛星データ活用と AI

- 重点ポイント
 - 「打ち上げて終わり」ではなく、データから社会価値を創出する段階へ
 - GPS の例にある通り、衛星の“時間情報”に地図・道路混雑など地上データを重畳して実用価値が生まれる
 - 優先ドメイン
 - 防災・減災、社会インフラの最適化・保守高度化
 - AI の役割
 - 現場での意思決定・自動化を加速(衛星データ×現場センサー×AI の統合)
 - 本日プログラム内でも AI 関連の議論が予定

人材育成と労働力

- 課題
 - 成長分野でありながら恒常的な人材不足
 - 大学での航空宇宙専攻の規模が相対的に小さい
- 方針
 - 他分野からの人材流入促進と、国レベルの宇宙スキル標準の明確化
 - 神奈川独自プログラムの付加(実地型学習・企業連携)
 - 教育事例の活用
 - 中須加先生による CanSat・超小型衛星プロジェクトなど、ハンズオン型での育成
 - 成果の数値化
 - 参加者数・就業遷移・プロジェクト創出などの KPI 設計とトラッキング
 - 経済価値に加え、宇宙を介した精神的豊かさ・郷土への誇りの醸成も重視

異業種間のメリットと健康および未病に関する研究

- 未病観点の研究
 - 宇宙環境を活用した疾病予防・健康維持の研究が地上医療に波及
- 波及効果
 - 宇宙以外の産業分野にも好影響を与える横展開を期待

リスクと課題

- 人材不足の恒常化
- サプライチェーンとデータ価値連鎖の分断
- 垂直統合への過度な志向による不整合(日本の産業構造に合わせた最適化が必要)

決定と方向性

- 戦略の重心は水平連携の強化(製造-データ-現場活用の有機的接続)
- 衛星データの実装価値(防災・インフラ等)を最優先で創出
- 人材パイプラインの確立とプログラム成果の定量評価を推進
- 「KANAGAWA Space Village」を核に中長期の産業振興を図る